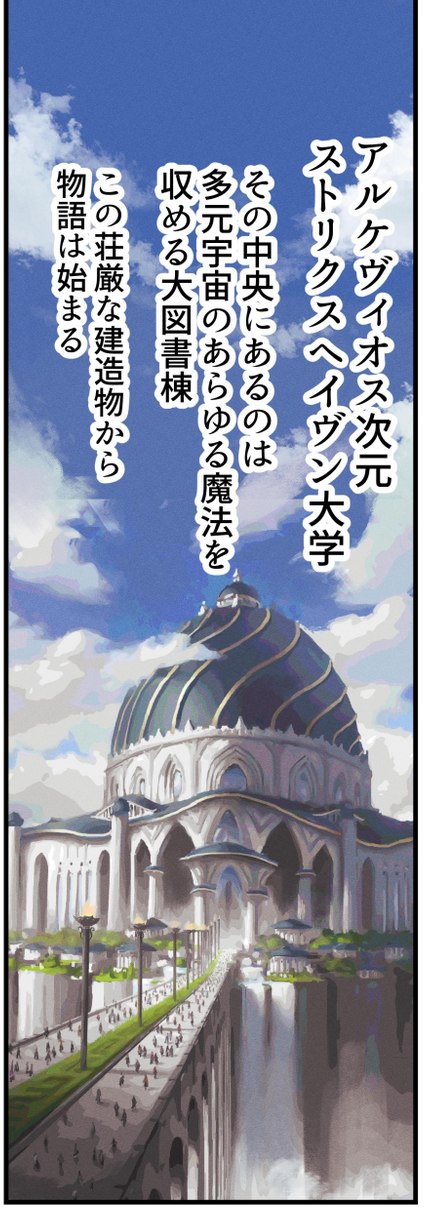
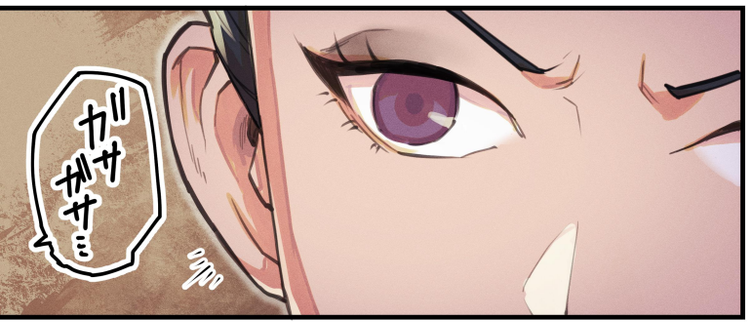

アルケヴィオス次元
ストリクスヘイヴン大学
その中央にあるのは
多元宇宙のあらゆる魔法を
収める大図書棟
この荘厳な建造物から
物語は始まる


今日も会議は
くだらない
この学校はいつもそう
生徒のころから変わらない
カツ
カツ…


誰も私の正体に
気づきもしない
スッ
誰もが自分の
ことでいっぱい


ガサ
ガサ…


ガサガサ…
そこで何を
しているの


カツカツ…
生徒はまだ
ここには――


ヒ
ギッ
!?


ふらつき？
どの大学の魔法でもないだけど素人の技
どうやら夏期講習に来たわけじゃないようね
禁忌の魔法を求める魔道士の秘密結社の構成員と見たけれど？
ボッ
リリアナの仮のすがた
オニキス教授
オニキス教授？どうかされましたかな？
ええたいしたことでは……皆さんは次の議題に？
今ここで目立つわけには…
メイジタワーのシーズン延長の話ですな
ナサーリ学部長が…
チラッ
……私たちにはもっと大きな問題があると思います
全くです！これから新学期も始まり…
そして新学期

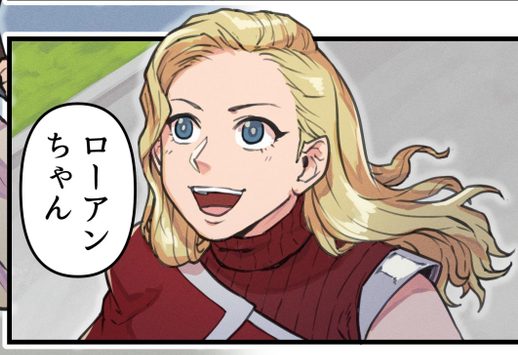
カズミナの誘いを受けた
ウィルとローアンは
ケイレム次元から
魔法学院へとやって来た

マンガで分かる!
Magic Story
『ストリクスヘイヴン：魔法学院』

監修：Wizards of the Coast
漫画：Anoa design
脚本・監修：Mayuko Wakatsuki
著：Adana Washington



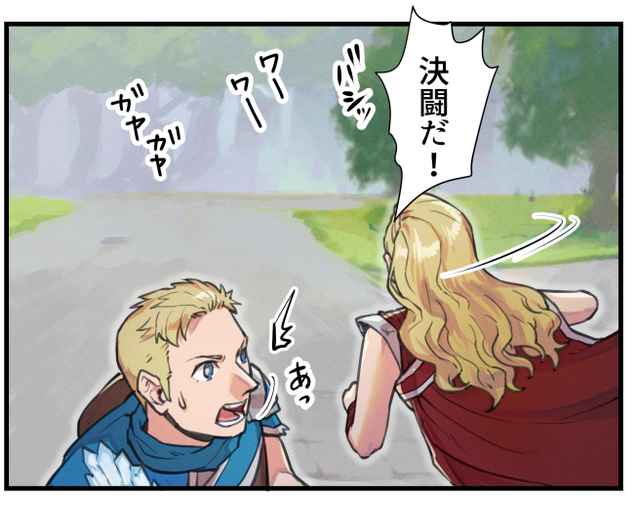


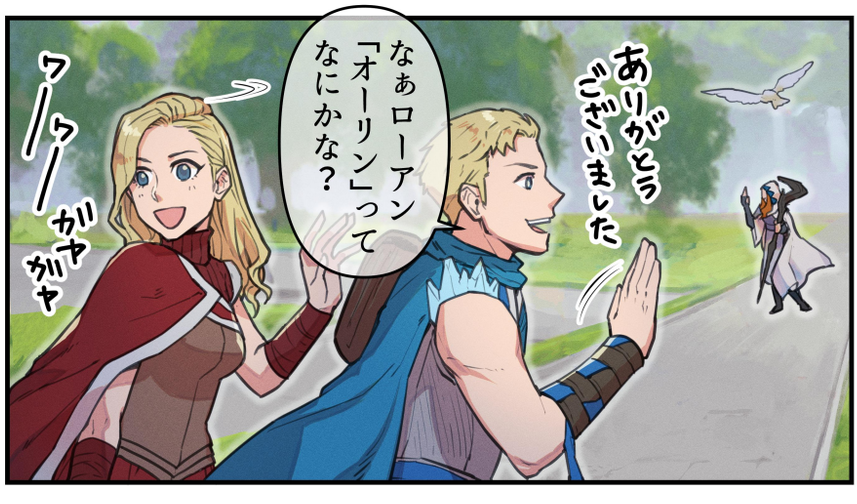













ウィザーブルーム…
懐かしい制服
決闘だって!
いってみよう!
ワー
ワー…
オニキス教授
クラスには
慣れましたか？
ニヤ
ええ
まぁ
プリズマリのイフリート
ナサーリ学部長
この魔法学院には
創始ドラゴンの名を冠した
五つの大学がある
うわさを
耳にしました
若者のうわさは
活発な想像力の
賜物ですよ
ロアホールド・プリズマリ
クアンドリクス・シルバークイル
ウィザーブルーム
ガヤ
ガヤ
ガヤ
仮面の侵入者を
見たと…
オリークの一員かも
しれません……
またかね
どうも大げさに
とらえすぎでは？
他の学部長に伝え
学校として備える
べきです
なぁに
大丈夫
だとも
ワー
ワー
ワー
ワー
ガヤ
見てごらん
なさい？
あれほどの才があれば
彼らはオリークなど
ものともしないさ
さぁ授業が
始まります
教室へ
ガヤ
ガヤ
ガヤ
ハーイ
ここはケイレムじゃ
ないんだローアン!!
ただ目的地に
着くことは
できないのか？
スタ
スタ
うるさいわね
ちょっと遊んだ
だけでしょ
エルドレインでも
ないんだから
つべこべ
言わないでよ
ケイレム？
エルドレイン？
アルケヴィオスの
地名ではない…
PWだとしたら
何かの時には
役に立つかも
しれないわね


後日
パタン
Journal
ベレドロス・
ウィザーブルームの巣
まさか自ら望んで
ドラゴンの巣に
踏み入るなんてね……
うわさ通りの
途方もない
秘術書の数だわ…
……このなかには
きっと……
訪問者か
教授よ
はるばる訪ねずとも
タイヴァ校長に頼る方が
面倒事も少ないであろうに
彼には
できません
サッ
霊気的再構築の研究を
されていますよね？
それを人間に用いる
方法を聞かせて
いただきたいのです
解るであろうが
蘇生の術は
その基礎となる
屍術とは異なり
極めて難しいものだ
例え私であろうとも

危険すぎる
繰り返しては
ならぬものがある

危険は承知です
私の身代わりに
なって死んだ
あの人の命を
取り戻したいのです

……

私には
できぬ

私が素性を隠して
この大学にいるのは

ギデオンを蘇生させる手段の探求
ただそれだけのはずだった

けれどオリークの
侵入を目撃した

ヒュン

私がここに
いたからこそ…

……ギデオン

ギュッ…

あなたはこれを
巡り合わせと
言うのでしょうね……

あの子たちは

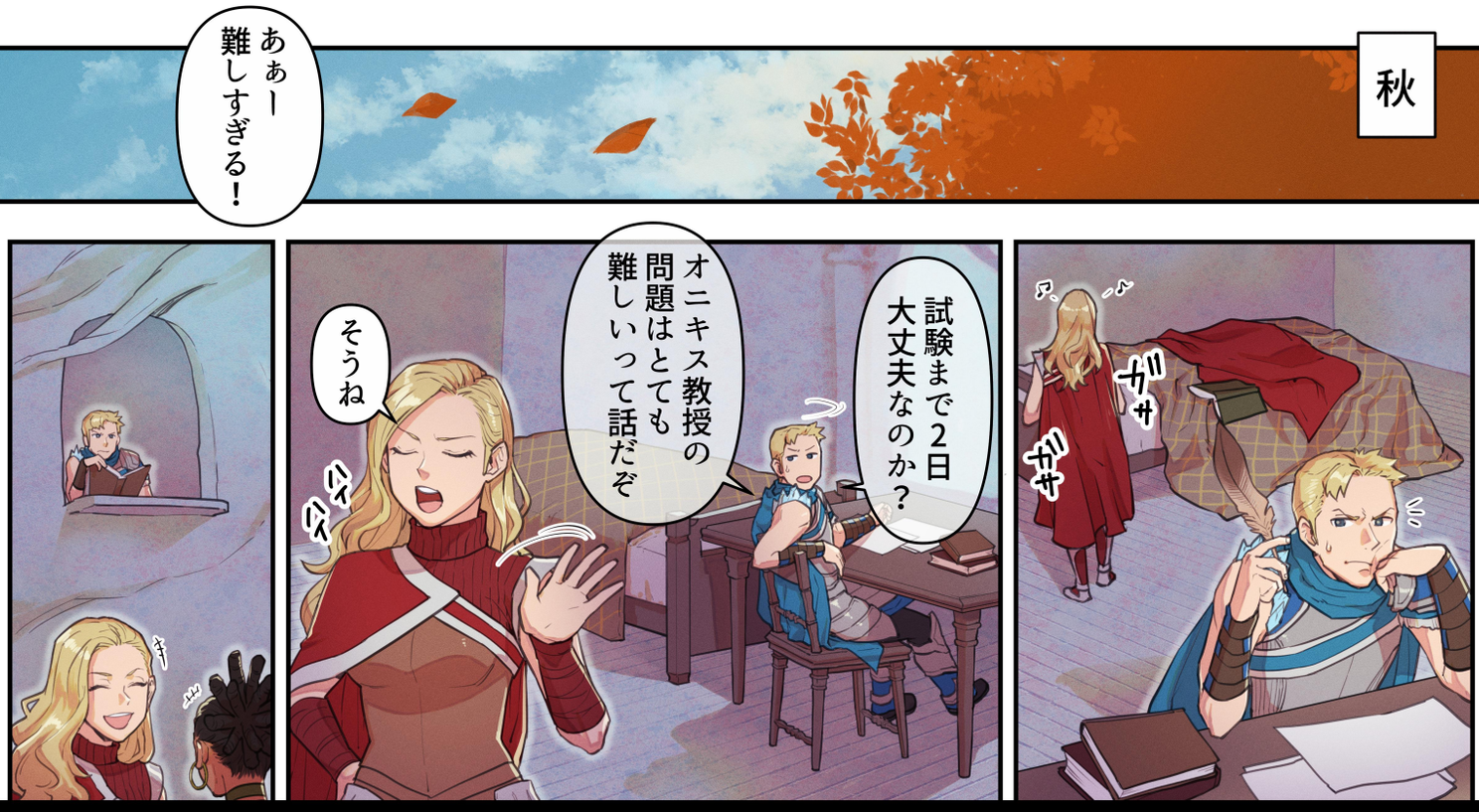
キャッ
キャッ

敵の接近に
気付いていない

今はまだ……

教授として
真面目に
ふるまうべき
時かもね

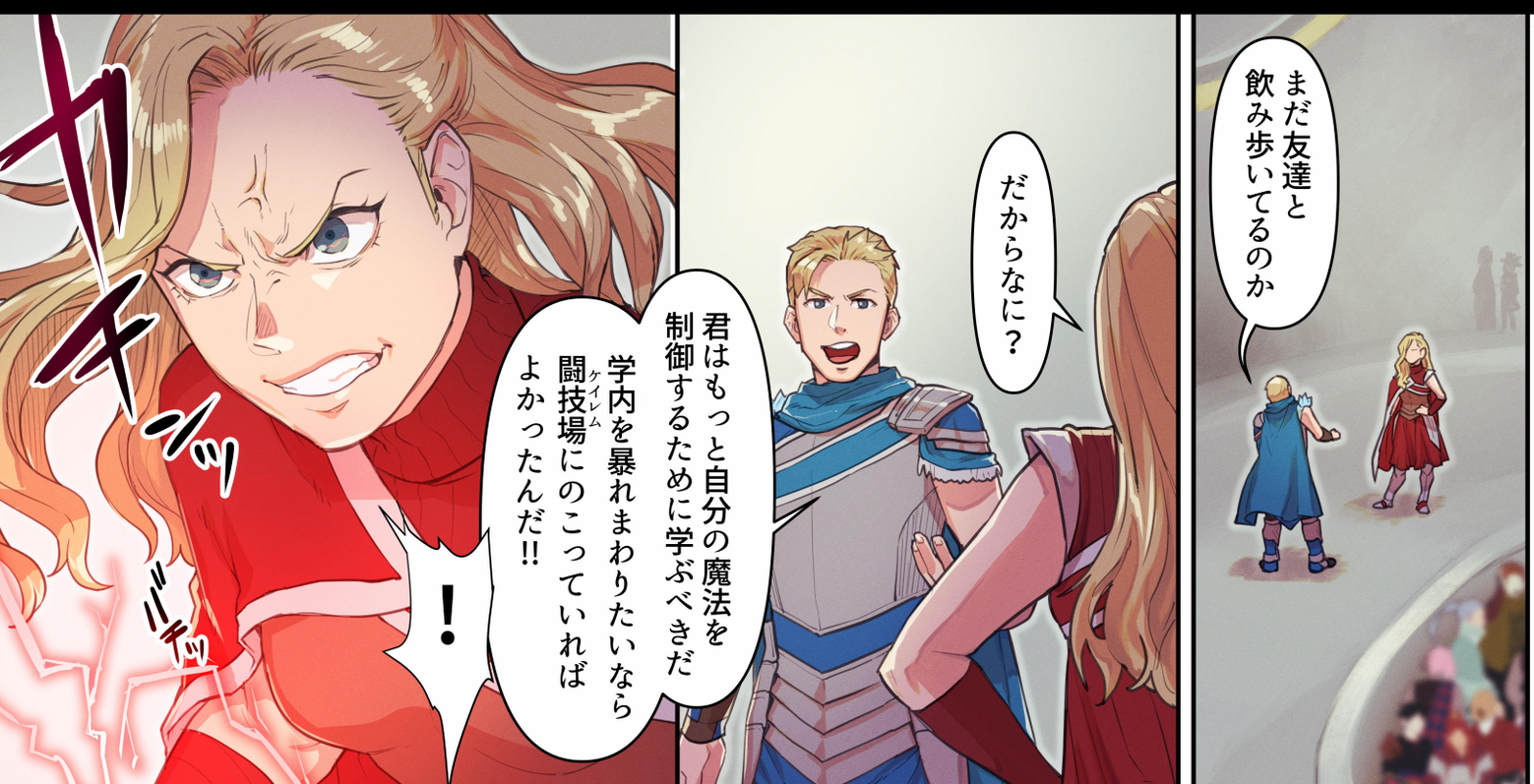
秋



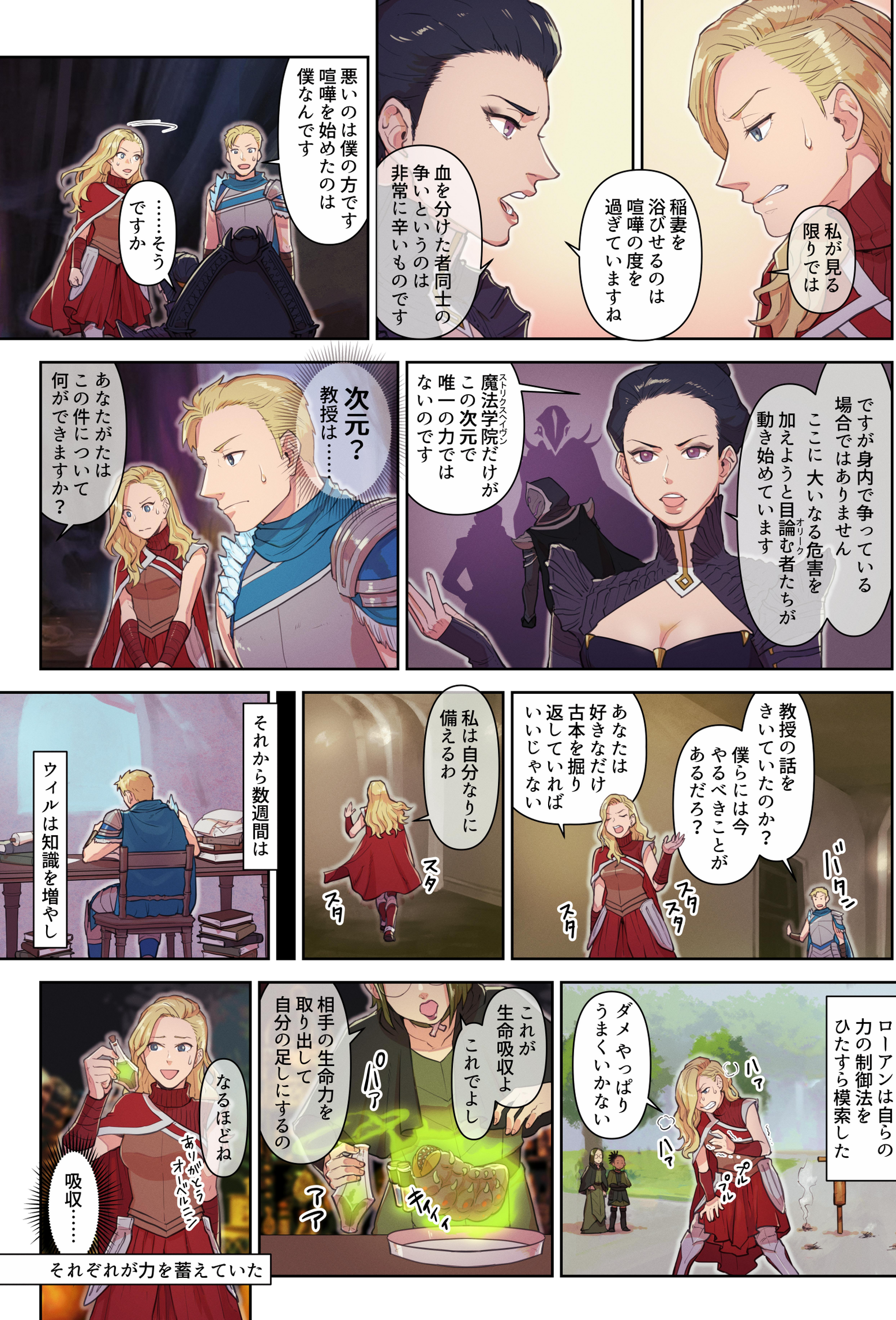
ウィルとローアンは学校生活をそれぞれの形で満喫していた



だが同時に　双子の間には少しずつ溝が生まれていった




私が何を学んだか
見せてあげるわ!!
あなたはそこで倒れていればいいのよ
フンッ
ハキ
ハキ
ヒキ
これはウィルの…?
ヒキ
ハキ
ハキ…
やられた動けない!
やめなさい!!
ビクッ
オニキス教授……
ざわ
ざわ
ざわ
カツ
カツ…
オニキス教授……怖い噂を沢山聞いている
機嫌を損ねたら肉食性の亡者茸の苗床にされるとか……嘘ならいいんだけれど
カツ
カツ
先ほどはなにがあったのですか?
なんでもありませんただの双子の憂さ晴らしです


私が見る限りでは
稲妻を浴びせるのは喧嘩の度を過ぎていますね
血を分けた者同士の争いというのは非常に辛いものです
悪いのは僕の方です 喧嘩を始めたのは僕なんです
……そうですか
ですが身内で争っている場合ではありません ここに大いなる危害を加えようと目論む者たちが動き始めています
魔法学院だけがこの次元で唯一の力ではないのです
次元？ 教授は……
あなたがたはこの件について何ができますか？
教授の話をきいていたのか？ 僕らには今やるべきことがあるだろ？
あなたは好きなだけ古本を掘り返していればいいじゃない
私は自分なりに備えるわ
それから数週間は
ウィルは知識を増やし
ローアンは自らの力の制御法をひたすら模索した
ダメやっぱりうまくいかない
これが生命吸収よ これでよし
相手の生命力を取り出して自分の足しにするの
なるほどね
吸収……
それぞれが力を蓄えていた

ある日の真夜中


不意の騒動にウィルは自室から飛び出した
ドォォォン!!
オリークだ!! 一年生は逃げろ!!
キャー
キャー
ウァァァ
ドドッ


オニキス教授の予感が的中してしまったのだ


自室にはローアンの姿はなかったそれはいつものことだった

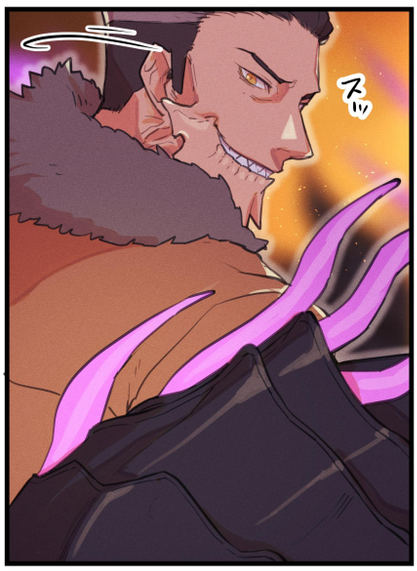

キャァァ
ローアン!!
ローアンと合流しないと
ワァァァ
ゲッ

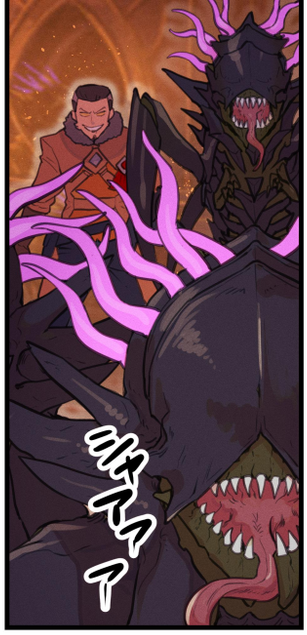

囲まれた!! もうだめだわ
ズッ
ハッ


あきらめないで!! 突破(にげ)きるのよ!!
逃げるってどこによ?


ウィルに会わないと!!
学部長や教授が対抗する場所を選ぶとしたらキャンパスの中心!!
大図書棟よ!
ズッ


あら今更勉強する気になったの?
ウィルあなたもそこにいることを願うわ
ダダッ

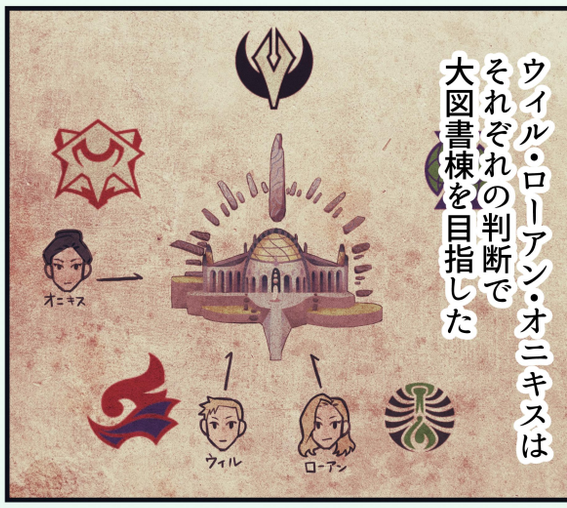

スッ

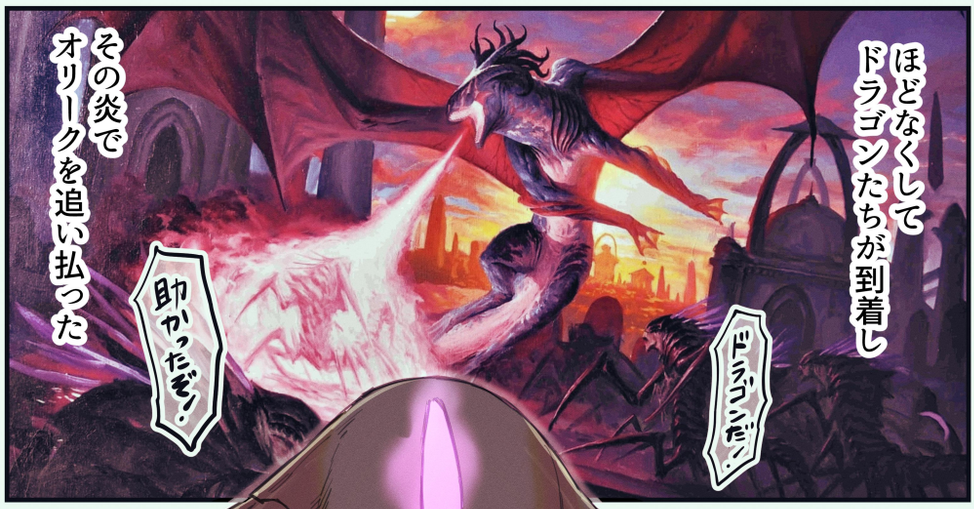

シャアア


教授たちもまた
生徒を守るために戦っていた
バシッ
なぜ虫が
こんな統制を!?
方法は分かり
ませんが
あそこに…!


リリアナは追おうとして
だが気付いた


この大混乱
キャンパス全体への攻撃
狙いはなに?
キッ
……攻撃じゃない!?
これは陽動!?
目的は
大図書棟!!?

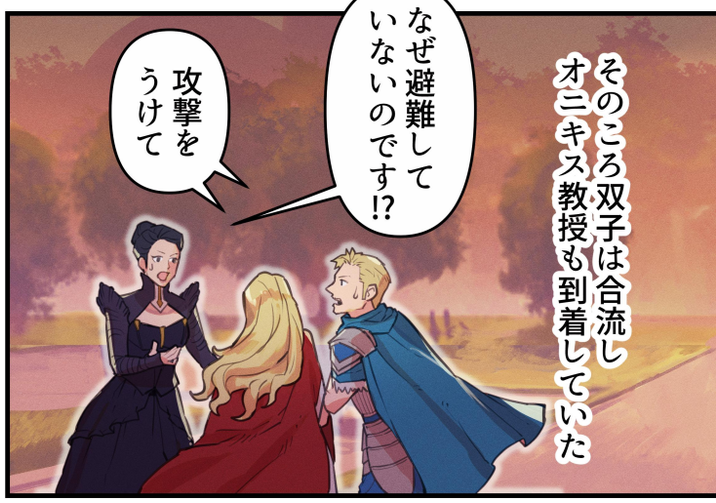

ウィル・ローアン・オニキスは
それぞれの判断で
大図書棟を目指した
オニキス
ウィル
ローアン


ほどなくして
ドラゴンたちが到着し
その炎で
オリークを追い払った
助かったぞ!
ドラゴンだ…


かに思われた
大図書棟(しんたくしゃのま)の中心部
カツカツ
カツ…


魔具が
そろいました
エクスタス様
陽動も
滞りなく…
キッ


素晴らしい!!
やつらの時代は
終わりを告げる
今より我々が
この不平等な
世界を再構築
するのだ!!
オリークの首領
エクスタス

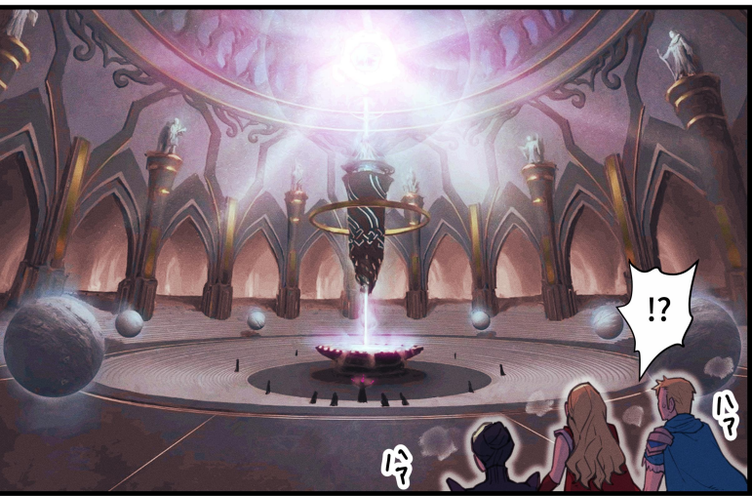

そのころ双子は合流し
オニキス教授も到着していた
なぜ避難して
いないのです!?
攻撃を
うけて

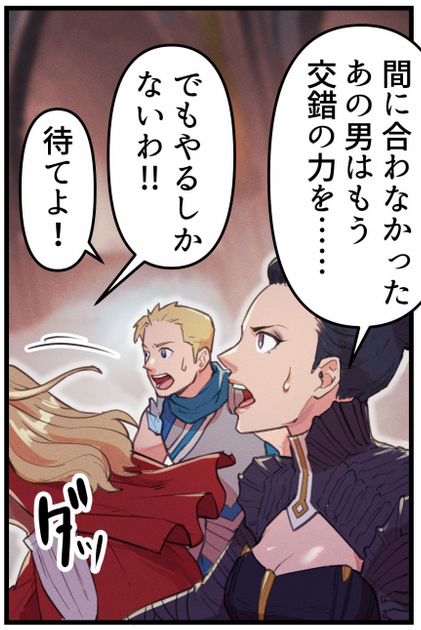

……
責任感のある教授なら
生徒たちを安全な場所へ
連れていくでしょうね

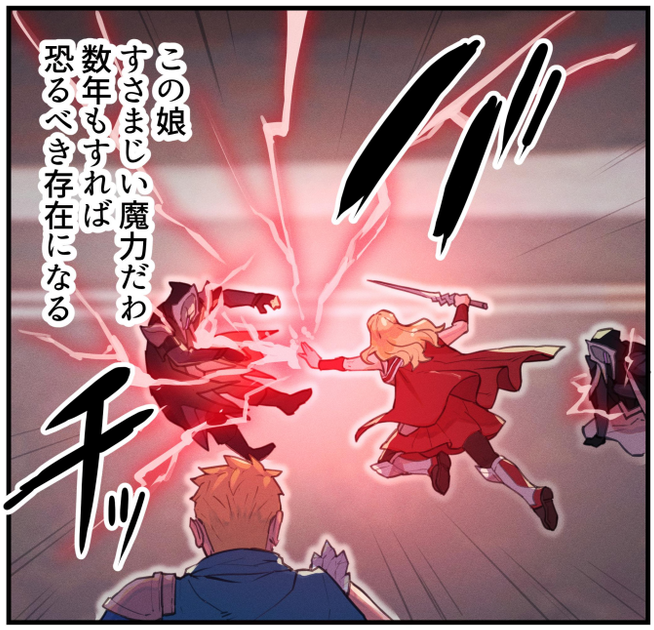

でもそのつもりは
ないんですよね?

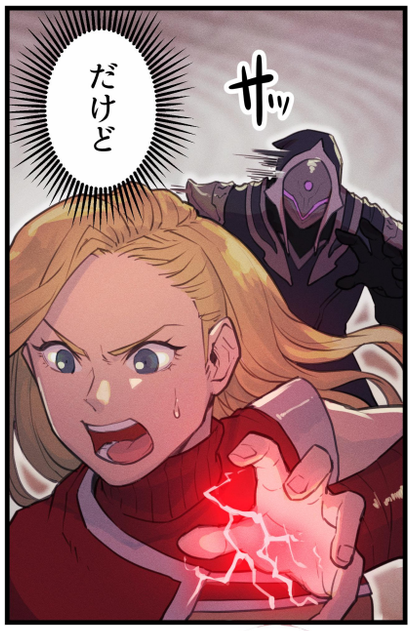

彼らはオニキス教授が知る
秘密の地下道を通り
神託者の広間へ
急いだ
タタタ…


そこには始原のマナが
もつれて溢れる「交錯」がある
敵はその絶大な力を
手に入れようとしていたのだ

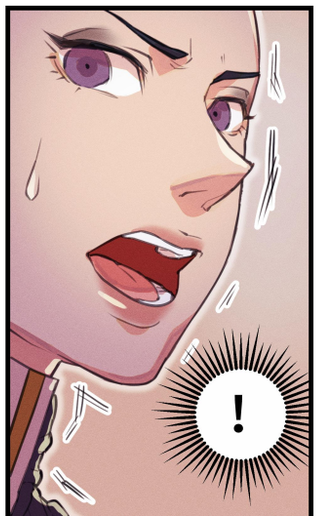

!?


間に合わなかった
あの男はもう
交錯の力を……
でもやるしか
ないわ!!
待てよ!
ダッ


この娘
すさまじい魔力だわ
数年もすれば
恐るべき存在になる
チッ

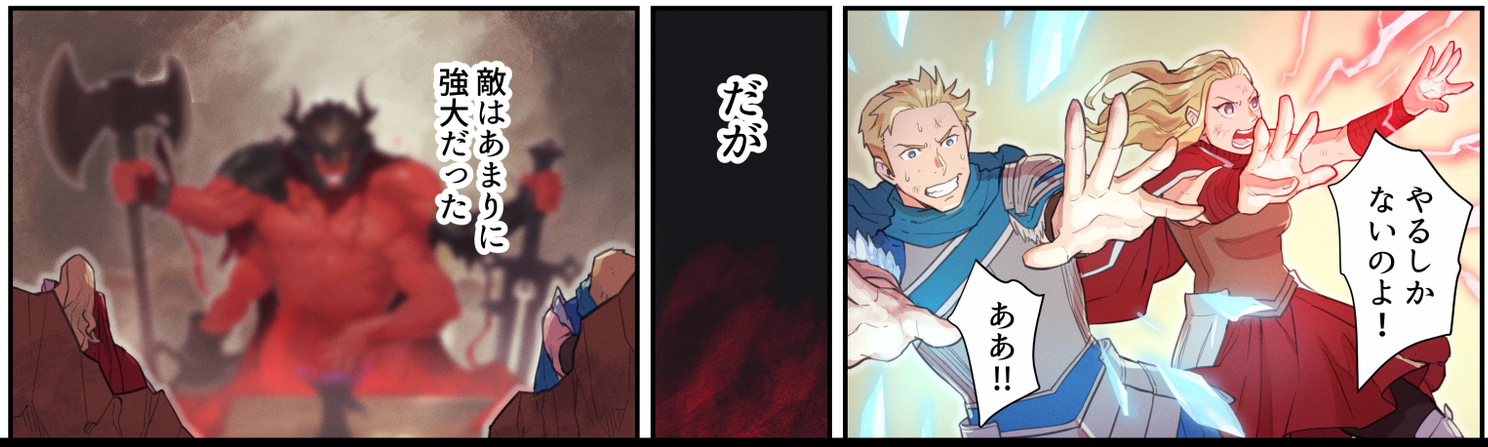

サッ
だけど


経験の方は
まだまだのようね
ドサッ


!


しまった……!
ぐらら
あ…


シュン
やられた……
強制転移魔法(とばされた)ってわけね
2人とも私が着くまで死ぬのは許さないわよ
ヒュン
なんて威力だ
ドサッ
血？僕のじゃない
壁から溢れている
ピチャ
ウィル！あれ!!
なっ!?
ゴゴゴゴ
僕ら二人がこれを止めるしかないのか？
シュー
シュー
甦れ 血の化身よ!!
真の魔法の力を理解出来ぬ愚者どもに怒りを解き放つのだ
失敗したらきっと全員が死ぬ…
ズズズズ

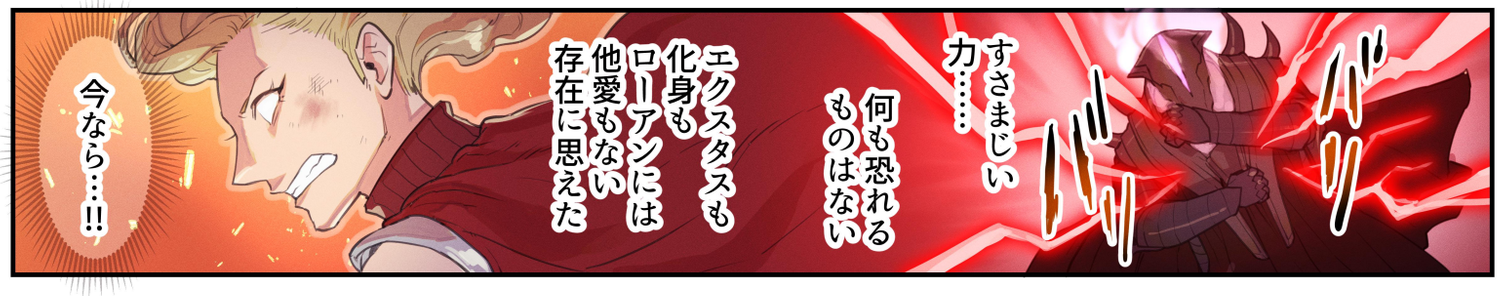


ローアンは思った　私たちはやれることをやった　もう十分だと……



けれど学びを得ていた　そして怒りが彼女を止めはしなかった



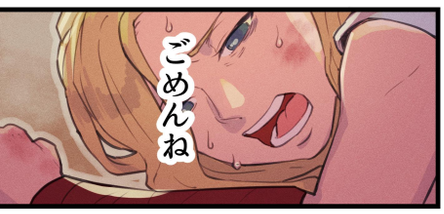

すさまじい力……
何も恐れるものはない
エクスタスも化身もローアンには他愛もない存在に思えた
今なら…!!

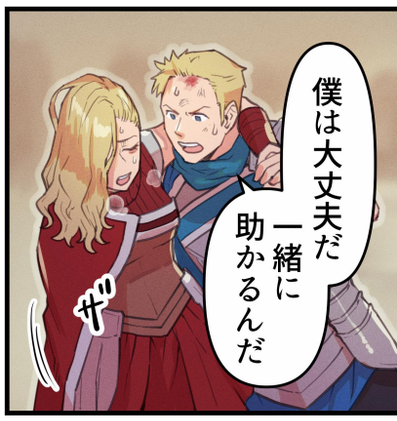

!?

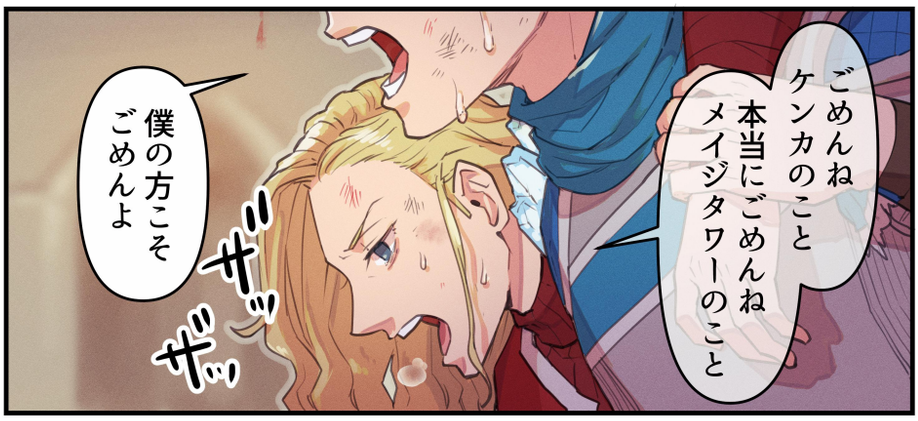

ハッハッハッ
ガクッ
愚か者め
お前ごときが交錯を手懐けられるなどと
その野心は称賛にあたいするがな


ドクン…
ドクン…
交錯は……
強すぎる…


ローアン
ズル
起きろ
頼む
ズル


ごめんね

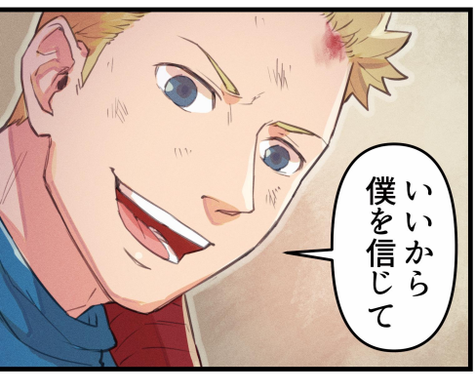

僕は大丈夫だ
一緒に助かるんだ
ザ

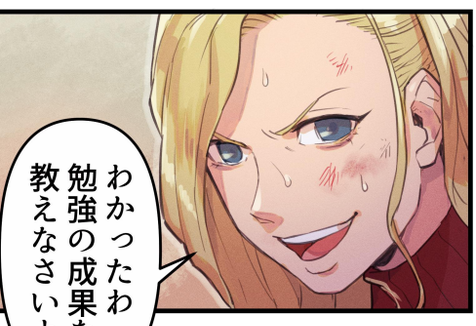

ごめんね
ケンカのこと
本当にごめんね
メイジタワーのこと
僕の方こそ
ごめんよ
ザッ
ザッ

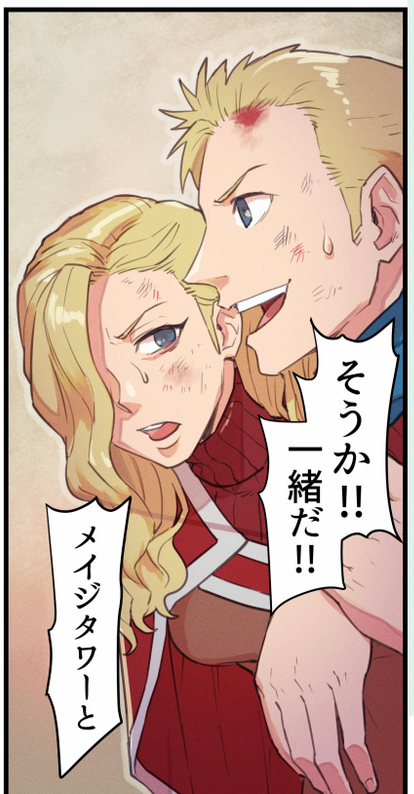

まて…


やれ!!
嘲りに満ちた過去の存在を破壊するのだ
ズズ…


メイジタワーだって?
すごい!
マスコットを奪ったんだよ!


いいから僕を信じて


わかったわ
勉強の成果を教えなさいよ


そうか!!
一緒だ!!
メイジタワーと


…ガキどもが!!
ガッ
ガ
ア
ア
ア
ア
血の化身も召喚された存在だ
一体なにを!?
奪うことができる!!
我々の…
野望を…
が…ッ!!
キッ
ボキッ
チャニ
オスドン
うそ…
還っていく!!
ローアン 僕らはやったんだ!!
グァ
そう…
ねっ…
ふら…
ウィル!!
ウィル——!!

5週間後

カーン
カーン

パタン

あの直後に駆け付けた
学部長たちが
僕らを救ってくれた

ゴゴゴゴ
ゴゴゴ

神託者の間は
崩落したけれど
全ては解決した

今や僕らのうわさは
学校中に知れ渡っていた

コツ
カツ
コツ
カツ
コツ
カツ

おかげで以前よりも
ずっと注目を
浴びるようになった

自室前

おかえり

具合はどう？

だいぶいいかな
そっちは？

少しは
慣れてきたよ

エルドレインに
帰ったら何て
言われるかしらね？

どうかな…

僕は右脚の膝から下を失った
ローアンは交錯(あれから)の後
ひどくやつれて
顔色もずっと悪かった

そろそろ
行かないと

オーベルニンと
プリンクによろしく

だけど

あ

わかってる？

あなたのこと
大好きよ

僕らの関係は
すっかり　いや前以上に良くなったって

ああ

僕も
大好きだよ

そう思うんだ


オニキスが
学校へ戻るには
何日も要した
彼女の警告に
耳を傾けなかった
学部長たちは
非を認めた
そして
無期限に大学に
残らないかと提示した
ひとつの小さな
但し書きをつけ
彼女は了承した
もう悪魔も
暗い策略も
死もない世界
今の私の居場所
バタン
Journal
スッ
長い付き合い
だったわね
今の私を
あの男は誇らしく
思うかしらね
カツ
カツ
生徒のみなさん
屍術入門へようこそ
リリアナ・ヴェス
教授です
よろしく